

国際環境協力の現状を評価するに当たっての 問題意識 / 視点

1 地球環境の保全と持続可能な開発

人々の生活を支える地球環境の保全と持続可能な開発の達成は全世界共通の課題である。

経済社会は、国際的に密接な相互依存関係にあり、全ての国が、国際的協調の下で、パートナーシップを構築し、各国の自助努力を基本としつつ、協力し合いながら行動する必要があるが、世界的な協力の枠組みは十分に形成され、機能しているか。

2 アジア太平洋地域：特に東アジア地域における協力

アジア太平洋地域、その中でも東アジア地域は、我が国との経済的、文化的関係が密接な地理的位置にある。また、アジア太平洋地域は、世界の人口の半数以上が生活しており、著しい経済成長にともなう環境悪化が激しい地域である。この地域の環境保全は、地球規模でも重大な課題である。

当地域、特に東アジアの諸国間では様々な政策対話や具体的協力が進みつつあるが、協力の枠組みやそれに基づく具体的な環境管理の取組みは、戦略的・効果的に行われているか。

3 様々な主体による国際環境協力

地方公共団体、企業、NGO/NPO など様々な主体による取組みが進められつつあるが、同じ分野や地域で取り組む主体間の連携は十分か。また、政府による支援は適切に行われているか。

4 国内の体制

これまでは、ODA に関する体制の強化が中心であったが、国際環境協力の場は大きな広がりを見せている。その場に我が国が有効に参加するため、人材の育成・活用、情報や資金、国民各層の参加機会など、ODA の枠組みを超えた幅広い協力の基盤は十分か。

5 持続可能な開発に関する計画等における重点分野を考慮した協力

WSSD をはじめ、持続可能な開発に関しては、様々な計画等で重点分野が掲げられている。こうした流れを踏まえた上で、特に重点的に取り組むべき分野を考慮しているか。

また、国際社会の目標である貧困削減、新たな貿易体制への対応、紛争予防といった領域を考慮しているか。